

経済レポート

景気ウォッチャー調査(東海地区:2017年6月)

～ 現状判断DIは3ヶ月連続で上昇 ～

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

7月10日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、**東海地区の6月の現状判断DI(3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断 季節調整値)**は、前月差 2.7 ポイント上昇の 52.7 と3ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差 0.9 ポイント上昇の 51.7 と2ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す 50 を5ヶ月連続で上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同 1.5 ポイント上昇の 50.0 と3ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す 50 となった。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、55.3 と前月と同水準となり、横ばいを示す 50 を7ヶ月連続で上回った(注1)。

現状判断DI(方向性)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)			
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
17 4	49.4	0.5	48.1	0.7	51.9	0.2	50.4	-0.2	49.8	-0.9	49.5	-0.2	56.3	2.5	52.2	-0.2
5	50.0	0.6	48.6	0.5	50.8	-1.1	50.1	-0.3	48.5	-1.3	48.9	-0.6	55.3	-1.0	52.5	0.3
6	52.7	2.7	50.0	1.4	51.7	0.9	49.9	-0.2	50.0	1.5	48.2	-0.7	55.3	0.0	53.4	0.9

6月の先行き判断DI(2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断 季節調整値)は、前月差 0.3 ポイント上昇の 49.7 と3ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差 0.9 ポイント低下の 51.3 と3ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を3ヶ月連続で上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同 0.1 ポイント低下の 50.2 と3ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を2ヶ月連続で上回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同 2.3 ポイント低下の 53.6 と3ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を3ヶ月連続で上回った。

先行き判断DI(方向性)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)			
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
17 4	48.2	0.4	48.8	0.7	50.3	2.3	50.4	1.4	48.8	1.6	49.9	1.1	53.5	3.8	51.5	2.1
5	49.4	1.2	49.6	0.8	52.2	1.9	51.5	1.1	50.3	1.5	50.7	0.8	55.9	2.4	53.1	1.6
6	49.7	0.3	50.5	0.9	51.3	-0.9	51.5	0.0	50.2	-0.1	50.7	0.0	53.6	-2.3	53.2	0.1

現在の景気的水準自体に対する判断DI(季節調整値)は、6月は前月差 0.3 ポイント上昇の 49.3 と3ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差 1.4 ポイント上昇の 50.3 と2ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す 50 を23ヶ月ぶりに上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断DIは、同 1.8 ポイント上昇の 47.4 と3ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す 50 を39ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断DIは、同 0.7 ポイント上昇の 56.3 と2ヶ月ぶりに上昇し、中立を示す 50 を9ヶ月連続で上回った。

現状判断DI(水準)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)			
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
17 4	48.5	2.5	47.0	1.7	49.8	0.1	48.9	0.5	46.8	-0.7	47.0	0.5	56.0	1.9	53.0	0.6
5	49.0	0.5	47.5	0.5	48.9	-0.9	48.3	-0.6	45.6	-1.2	45.9	-1.1	55.6	-0.4	53.1	0.1
6	49.3	0.3	48.3	0.8	50.3	1.4	48.5	0.2	47.4	1.8	45.8	-0.1	56.3	0.7	54.0	0.9

内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「持ち直しが続いている。先行きについては、人手不足に対する懸念もある一方、引き続き受注や設備投資等への期待がみられる」とまとめ、現状、先行きともに先月の判断を据え置いた。

(5月のまとめ)「持ち直しが続いている。先行きについては、人手不足に対する懸念もある一方、引き続き受注や設備投資等への期待がみられる」

東海経済についての東海地区の景気ウォッチャーの見方は「持ち直しの動きが広がっている。先行きについては、総じて見ると横ばいの動きが見込まれているが、ボーナス、夏休み、夏の暑さといった季節要因や受注や販売の伸びに期待する声広がっている」とまとめられる。

(5月のまとめ)「景気は横ばい圏で推移しているが、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、ボーナス、夏休みといった季節要因や外需の伸びに期待する声やや広がっているが、総じて見ると、横ばいの動きが見込まれている」

(注1) 企業動向関連と雇用関連からなるD I (原数値) は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のD I 算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。

東海 = 愛知、岐阜、三重、静岡

南関東 = 埼玉、千葉、東京、神奈川

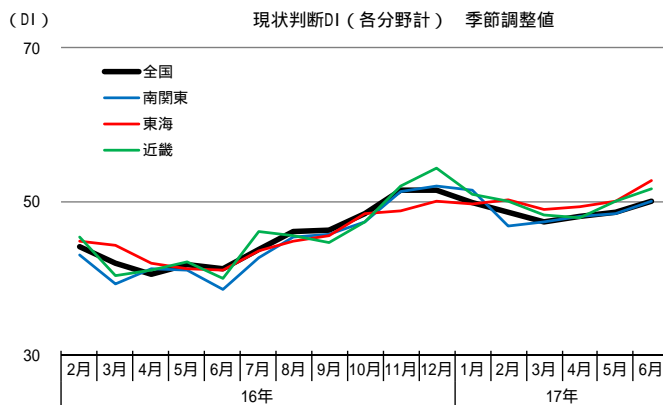
近畿 = 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

1. DIの動向

(1) 季節調整値の動向

景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DIは、前月差2.7ポイント上昇の52.7と3ヶ月連続で上昇した。全国、南関東より高く、近畿よりやや高い水準となった。

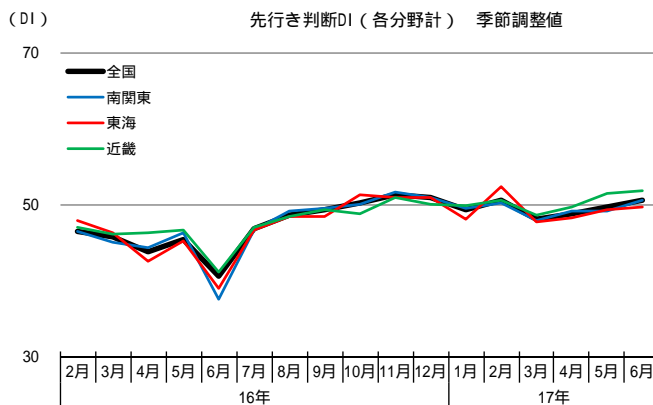


各分野計(季節調整値)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	44.1	43.0	44.9	45.4
	3月	42.0	39.3	44.3	40.3
	4月	40.6	41.3	42.0	41.1
	5月	41.7	41.0	41.2	42.1
	6月	41.2	38.6	41.1	40.0
	7月	43.8	42.7	43.6	46.0
	8月	46.0	45.4	44.9	45.6
	9月	46.3	45.8	45.6	44.7
	10月	48.4	47.3	48.5	47.3
	11月	51.4	51.3	48.7	52.1
	12月	51.4	52.0	50.1	54.4
	17年	1月	49.8	51.4	49.6
2月		48.6	46.8	50.3	50.1
3月		47.4	47.4	48.9	48.3
4月		48.1	48.1	49.4	47.9
5月		48.6	48.5	50.0	50.1
6月		50.0	50.1	52.7	51.7

景気の先行き判断(2~3ヶ月先の見通し、方向性)

2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DIは、前月差0.3ポイント上昇の49.7と3ヶ月連続で上昇した。近畿より低く、全国、南関東とほぼ同水準となった。

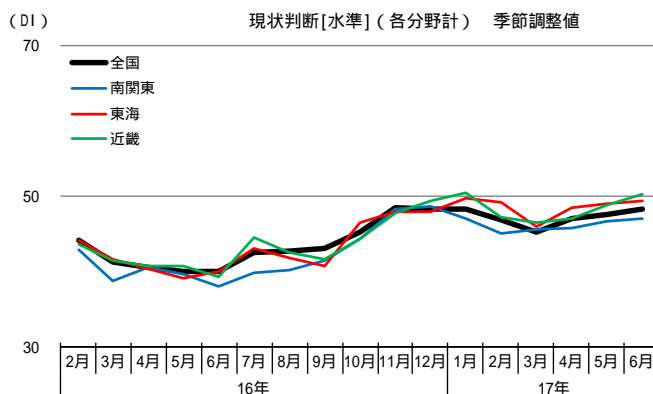


各分野計(季節調整値)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	46.4	46.5	47.9	47.0
	3月	45.7	45.1	46.2	46.1
	4月	43.7	44.3	42.6	46.2
	5月	45.4	46.3	45.2	46.7
	6月	40.5	37.5	38.9	41.1
	7月	46.9	46.6	46.6	47.0
	8月	48.6	49.2	48.5	48.4
	9月	49.4	49.5	48.5	49.4
	10月	50.3	50.1	51.2	48.7
	11月	51.3	51.6	51.0	51.0
	12月	50.9	51.0	51.0	50.0
	17年	1月	49.4	49.5	48.1
2月		50.6	50.2	52.3	50.6
3月		48.1	47.9	47.8	48.6
4月		48.8	49.1	48.2	49.7
5月		49.6	49.2	49.4	51.5
6月		50.5	50.6	49.7	51.9

景気の現状判断(水準)

現在の景気の水準自体に対する判断DIは、前月差0.3ポイント上昇の49.3と3ヶ月連続で上昇した。南関東より高く、全国、近畿とほぼ同水準となった。



各分野計(季節調整値)

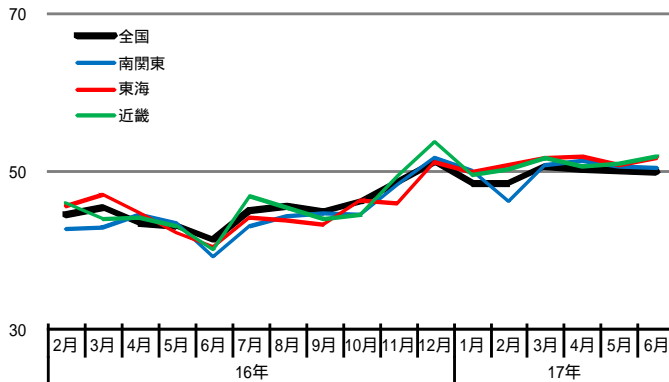
		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	44.2	42.9	44.1	43.7
	3月	41.3	38.8	41.7	41.4
	4月	40.5	40.5	40.4	40.7
	5月	40.0	39.7	39.2	40.7
	6月	40.0	38.1	40.0	39.3
	7月	42.5	39.9	43.0	44.5
	8月	42.8	40.2	41.8	42.6
	9月	43.0	41.4	40.8	41.6
	10月	45.3	44.3	46.4	44.3
	11月	48.4	48.3	47.9	47.8
	12月	48.3	48.7	48.0	49.4
	17年	1月	48.2	47.1	49.7
2月		46.8	45.0	49.1	47.2
3月		45.3	45.5	46.0	46.5
4月		47.0	45.7	48.5	47.1
5月		47.5	46.6	49.0	48.8
6月		48.3	47.1	49.3	50.3

(2) 原数値の動向

景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI(各分野計)は、前月差0.9ポイント上昇の51.7と2ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回った。全国、南関東よりやや高く、近畿とほぼ同水準となっている。

(DI) 現状判断DI(各分野計)

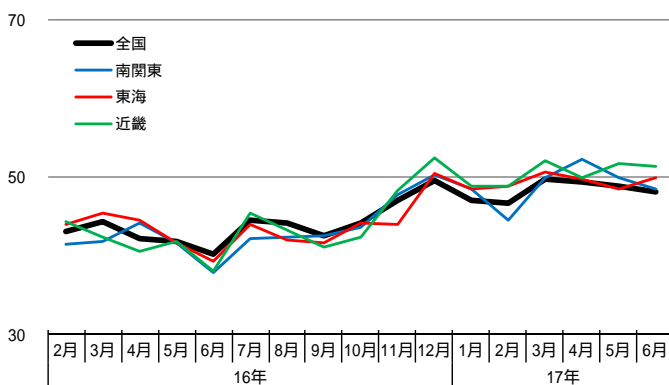


各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	44.6	42.8	45.6	45.9
	3月	45.4	42.9	47.1	44.0
	4月	43.5	44.6	44.7	44.1
	5月	43.0	43.4	42.2	43.1
	6月	41.2	39.1	40.3	40.1
	7月	45.1	43.2	44.2	46.9
	8月	45.6	44.3	43.9	45.4
	9月	44.8	44.7	43.3	43.9
	10月	46.2	44.5	46.4	44.5
	11月	48.6	48.3	46.0	49.4
	12月	51.2	51.8	51.3	53.6
	17年	1月	48.6	50.2	50.0
2月		48.5	46.1	50.9	50.3
3月		50.6	50.8	51.7	51.7
4月		50.4	51.3	51.9	50.7
5月		50.1	50.6	50.8	51.0
6月		51.7	50.6	51.7	51.8

家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同1.5ポイント上昇の50.0と3ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50となった。全国、南関東よりやや高く、近畿よりやや低い水準となっている。

(DI) 現状判断DI(家計動向関連)

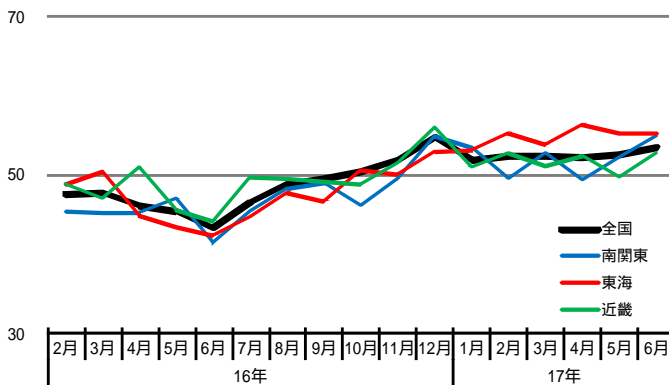


家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	43.2	41.5	44.0	44.4
	3月	44.3	41.8	45.4	42.4
	4月	42.2	44.2	44.6	40.7
	5月	41.9	41.6	41.6	41.9
	6月	40.2	37.9	39.3	38.1
	7月	44.5	42.1	44.0	45.4
	8月	44.1	42.4	42.0	43.2
	9月	42.6	42.6	41.6	41.1
	10月	44.1	43.7	44.2	42.3
	11月	47.1	47.8	44.0	48.3
	12月	49.6	50.4	50.5	52.4
	17年	1月	47.0	48.6	48.5
2月		46.6	44.5	48.9	48.9
3月		49.7	49.9	50.7	52.0
4月		49.5	52.3	49.8	49.9
5月		48.9	49.9	48.5	51.7
6月		48.2	48.5	50.0	51.3

企業動向関連と雇用関連からなるDIは、55.3と前月と同水準となり、横ばいを示す50を7ヶ月連続で上回った。全国よりやや高く、近畿より高く、南関東とほぼ同水準となっている。

(DI) 現状判断DI(企業動向・雇用関連)

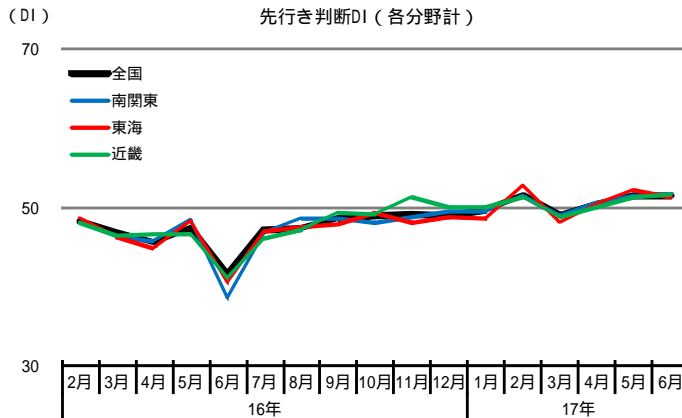


企業動向関連+雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	47.5	45.3	48.7	48.8
	3月	47.8	45.3	50.3	47.0
	4月	46.1	45.3	44.8	50.9
	5月	45.3	47.1	43.4	45.6
	6月	43.2	41.5	42.3	44.0
	7月	46.4	45.3	44.7	49.7
	8月	48.7	48.3	47.7	49.4
	9月	49.4	49.0	46.7	49.2
	10月	50.4	46.2	50.6	48.8
	11月	51.8	49.5	50.0	51.5
	12月	54.7	54.9	52.9	56.0
	17年	1月	51.9	53.4	53.0
2月		52.3	49.5	55.2	52.7
3月		52.4	52.7	53.8	51.2
4月		52.2	49.2	56.3	52.3
5月		52.5	52.2	55.3	49.7
6月		53.4	55.0	55.3	52.7

景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

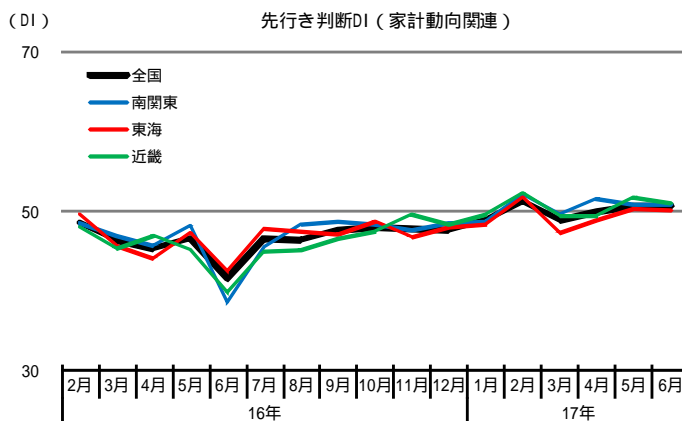
2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計）は、前月差0.9ポイント低下の51.3と3ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿とほぼ同水準となっている。



各分野計（家計動向関連 + 企業動向関連 + 雇用関連）

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	48.2	48.0	48.6	48.0
16年	3月	46.7	46.3	46.3	46.5
16年	4月	45.5	45.8	44.8	46.7
16年	5月	47.3	48.5	48.2	46.6
16年	6月	41.5	38.7	40.5	41.1
16年	7月	47.1	46.8	47.1	46.1
16年	8月	47.4	48.6	47.5	47.1
16年	9月	48.5	48.7	47.9	49.3
16年	10月	49.0	48.1	49.4	49.2
16年	11月	49.1	48.8	48.2	51.2
16年	12月	49.0	49.6	48.8	50.0
17年	1月	49.7	49.6	48.6	50.1
17年	2月	51.5	51.5	52.8	51.3
17年	3月	49.0	48.9	48.0	48.8
17年	4月	50.4	50.6	50.3	50.0
17年	5月	51.5	51.4	52.2	51.3
17年	6月	51.5	51.8	51.3	51.7

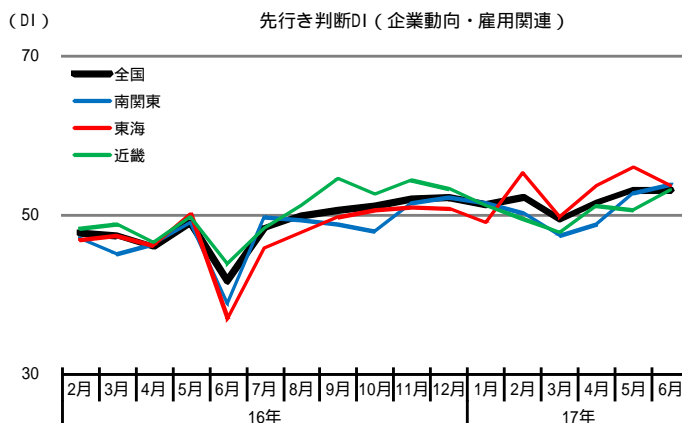
家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同0.1ポイント低下の50.2と3ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿とほぼ同水準となっている。



家計動向関連（小売関連 + 飲食関連 + サービス関連 + 住宅関連）

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	48.5	48.5	49.5	47.9
16年	3月	46.4	46.9	45.7	45.3
16年	4月	45.3	45.6	44.1	46.8
16年	5月	46.5	48.2	47.3	45.1
16年	6月	41.5	38.6	42.4	39.7
16年	7月	46.6	45.4	47.7	45.0
16年	8月	46.3	48.2	47.4	45.0
16年	9月	47.5	48.6	47.0	46.5
16年	10月	47.9	48.2	48.7	47.4
16年	11月	47.7	47.6	46.7	49.5
16年	12月	47.6	48.4	48.0	48.2
17年	1月	48.9	48.7	48.4	49.6
17年	2月	51.2	52.1	51.6	52.3
17年	3月	48.8	49.7	47.2	49.4
17年	4月	49.9	51.5	48.8	49.4
17年	5月	50.7	50.8	50.3	51.7
17年	6月	50.7	50.8	50.2	51.0

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同2.3ポイント低下の53.6と3ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿とほぼ同水準となっている。

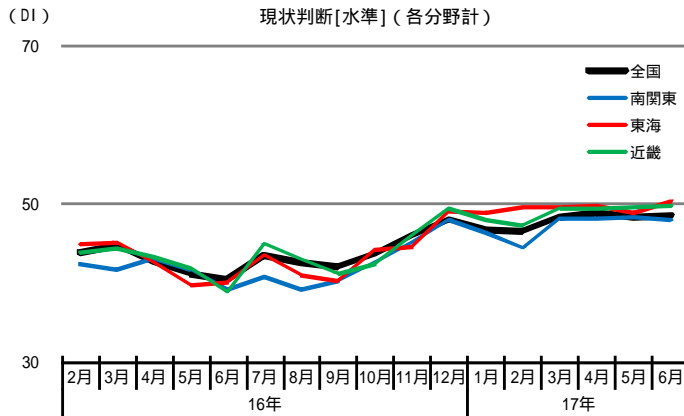


企業動向関連 + 雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	47.7	47.1	46.8	48.3
16年	3月	47.4	45.0	47.4	48.8
16年	4月	46.0	46.3	46.2	46.5
16年	5月	49.0	49.0	50.0	49.7
16年	6月	41.6	38.8	36.9	43.8
16年	7月	48.3	49.8	45.7	48.3
16年	8月	49.8	49.3	47.7	51.1
16年	9月	50.6	48.8	49.7	54.5
16年	10月	51.1	47.8	50.6	52.6
16年	11月	51.9	51.5	51.0	54.4
16年	12月	52.1	52.2	50.7	53.3
17年	1月	51.3	51.5	49.0	51.2
17年	2月	52.1	50.2	55.2	49.5
17年	3月	49.4	47.3	49.7	47.7
17年	4月	51.5	48.7	53.5	51.1
17年	5月	53.1	52.7	55.9	50.6
17年	6月	53.2	53.7	53.6	53.0

景気の現状判断（水準）

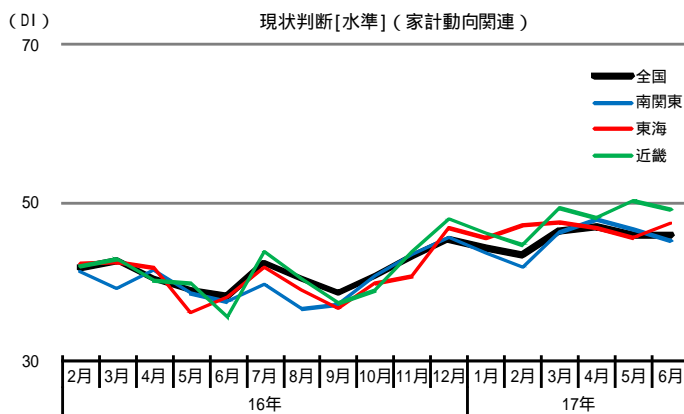
現在の景気的水準自体に対する判断DI（各分野計）は、前月差1.4ポイント上昇の50.3と2ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を23ヶ月ぶりに上回った。全国よりやや高く、南関東より高く、近畿とほぼ同水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	43.9	42.5	44.9	43.8
	3月	44.7	41.7	45.1	44.5
	4月	42.6	43.1	42.7	43.2
	5月	41.1	41.7	39.6	41.9
	6月	40.3	39.1	40.1	38.9
	7月	43.4	40.8	43.4	44.8
	8月	42.5	39.2	41.0	42.9
	9月	42.0	40.2	40.2	41.2
	10月	43.7	42.7	44.1	42.4
	11月	46.0	45.1	44.6	45.9
	12月	48.0	48.0	49.1	49.4
	17年	1月	46.7	46.3	48.8
2月		46.4	44.3	49.6	47.2
3月		48.4	48.2	49.7	49.4
4月		48.9	48.2	49.8	49.4
5月		48.3	48.3	48.9	49.6
6月		48.5	48.0	50.3	49.7

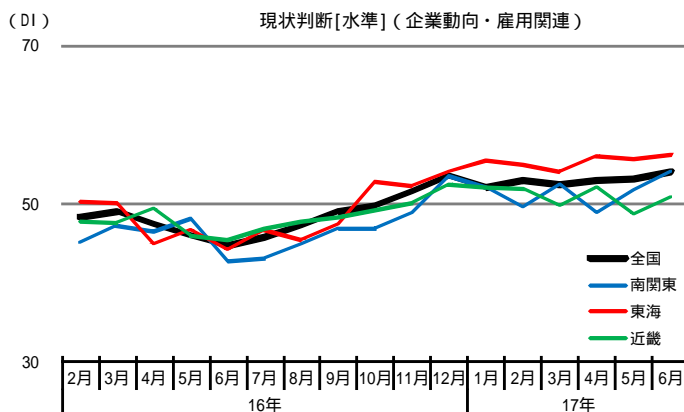
家計動向関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断DIは、同1.8ポイント上昇の47.4と3ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す50を39ヶ月連続で下回った。全国よりやや高く、南関東より高く、近畿よりやや低い水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	41.7	41.1	42.2	41.9
	3月	42.6	39.1	42.5	42.8
	4月	40.3	41.4	41.7	40.1
	5月	38.8	38.6	36.0	39.8
	6月	38.2	37.4	38.0	35.4
	7月	42.3	39.7	41.8	43.8
	8月	40.3	36.6	38.9	40.4
	9月	38.6	37.0	36.6	37.3
	10月	40.7	40.6	39.7	38.9
	11月	43.2	43.4	40.7	43.7
	12月	45.4	45.6	46.8	47.8
	17年	1月	44.2	43.5	45.6
2月		43.3	41.8	47.1	44.5
3月		46.5	46.2	47.5	49.3
4月		47.0	47.9	46.8	48.1
5月		45.9	46.7	45.6	50.2
6月		45.8	45.2	47.4	49.1

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断DIは、同0.7ポイント上昇の56.3と2ヶ月ぶりに上昇した、中立を示す50を9ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿より高い水準となっている。



企業動向関連+雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	2月	48.3	45.1	50.3	47.7
	3月	49.0	47.3	50.0	47.6
	4月	47.3	46.5	44.8	49.4
	5月	45.9	48.0	46.7	45.9
	6月	44.8	42.7	44.2	45.5
	7月	45.8	43.1	46.7	46.9
	8月	47.2	44.9	45.4	47.7
	9月	49.1	46.8	47.4	48.3
	10月	49.8	46.9	52.8	49.1
	11月	51.6	48.7	52.2	50.0
	12月	53.4	53.5	54.0	52.4
	17年	1月	52.0	52.0	55.4
2月		52.9	49.5	54.9	51.9
3月		52.4	52.5	54.1	49.7
4月		53.0	48.7	56.0	52.0
5月		53.1	51.7	55.6	48.6
6月		54.0	54.0	56.3	50.8

2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(1) 景気の現状判断

現状判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。6月調査では、「良くなっている」「やや悪くなっている」「悪くなっている」の割合が低下し、「やや良くなっている」「変わらない」の割合が上昇した。

現状判断 (回答者数)	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答 合計
2016年6月調査	3	21	107	82	17	230
7月調査	3	24	129	63	10	229
8月調査	1	24	134	58	12	229
9月調査	1	24	126	62	12	225
10月調査	3	33	136	53	10	235
11月調査	5	29	132	54	11	231
12月調査	5	53	113	40	6	217
2017年1月調査	2	47	133	37	7	226
2月調査	6	52	120	38	9	225
3月調査	3	53	129	36	4	225
4月調査	4	52	127	31	6	220
5月調査	8	46	128	39	8	229
6月調査	5	49	138	33	5	230

(家計動向関連)

今年は梅雨に入っても雨が少なく、そのことが消費にはプラスに働いたようだ。

- ・梅雨に入っても、例年になく天候の良い日が続き、人出が多い。人の流れが良く地域も活性化して、売上が増加している。(商店街代表者)
- ・6月は空梅雨で、来客数が多い。(一般レストラン従業員)
- ・雨も少なく天候に恵まれ、前年同月比では販売量が少し増加している。(旅行代理店経営者)
- ・例年のことではあるが6月は動きは鈍い。客の需要を喚起する材料も少ない。梅雨時でも天候が良かったことはプラスに作用している。(乗用車販売店経営者)

お中元、ボーナスといった季節要因も消費の改善につながっている。

- ・お中元シーズンに入り来客数が伸びてきている。(一般小売店[惣菜]店長)
- ・ボーナス支給で購買意欲の高まりがみられる。低中価格帯が中心だが、高額商品も活発に動いている。前月、前年と比較して、売上、来客数、販売点数共に増加している。(百貨店販売担当)
- ・梅雨に入っても雨が少なく、今月後半にはボーナスが出た企業もあり、来客数は後半に伸びて、何とか前年並みの売上をキープしている。(その他専門店[書籍]店員)
- ・時期的にお中元等の出費が多く、自分用の装飾品にはあまり金を使わない。ボーナスが出始めれば、自分へのご褒美として買う可能性はある。(その他専門店[貴金属]営業担当)

ターミナル駅地区の商業施設開業の好影響を指摘する声が続く。百貨店では、高額品、インバ

ウンドが好調のようだ。

- ・4月にターミナル駅地区に大型商業施設が開業して以来、当店も来客数が増え、食品を中心に買い回り客が多くなっている。(百貨店計画担当)
- ・特選ブランドや時計・宝飾等の高額品の動きが顕著であるとともに、インバウンドによる訪日観光客によって化粧品等の消費財の動きが大きく、売上全体をけん引している。(百貨店経営企画担当)

三重県でのイベント効果は一段落となった模様だ。

- ・伊勢志摩サミットから1年、全国菓子大博覧会も終わって平穏な状況が続いている。少し活気が失せた感はない。(一般小売店[土産]経営者)
- ・当地では、遷宮、伊勢志摩サミット、全国菓子大博覧会と続いた大型イベントが終わり、やや一段落となっている。(一般小売店[土産]経営者)

消費者の節約志向は続いており、消費はそれほど良くないとの声もある。

- ・前月は好調だった販売量も6月は落ち着き、前年並みである。前月までは比較的単価が高い商品が動いていたが、安い物を求める客が急に増え、いつもどおりに戻っている。(商店街代表者)
- ・製造数、来客数、客単価共に全体的に横ばいである。低単価商品の割合が高止まりしており、客単価が依然として上昇しない。(商店街代表者)
- ・6月の景気はまずまずであるが、政府が景気は良いといっているほど、現実の消費は伸びていない。地元百貨店やスーパーの売上には伸びがなく、時給の低いアルバイトを採用する等、各店が経費削減の努力をしている。消費者も、衣料品等はできるだけ長く着るような節約志向となっている。(スーパー経営者)

「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。これまで同様、販売会社によって好調、不調の温度差がある。

- ・今月は、問い合わせ、成約件数共に多く、とにかく良く売れている。(乗用車販売店従業員)
- ・6月には大型イベントもあり値引き条件を大幅に増やしたため、販売台数は大幅に伸びており、ほとんどの店舗で販売目標を達成している。(乗用車販売店従業員)
- ・これまであった新型車効果が薄れている。ボーナス需要による市場の盛り上がりを期待したが、顕著には感じられない。(乗用車販売店従業員)
- ・来客数は、特に新規客がかなり減少している。(乗用車販売店販売担当)

現状判断 (回答者数)	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答 合計
2016年6月調査	0	1	3	3	1	8
7月調査	0	2	4	3	0	9
8月調査	0	1	6	1	0	8
9月調査	0	1	8	0	2	11
10月調査	0	2	5	4	0	11
11月調査	0	1	6	3	0	10
12月調査	0	2	6	1	0	9
2017年1月調査	0	4	4	1	0	9

現状判断 (回答者数)	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答 合計
2月調査	0	4	3	2	0	9
3月調査	0	3	6	1	0	10
4月調査	0	0	9	0	1	10
5月調査	1	1	4	1	0	7
6月調査	1	1	5	2	0	9

(企業動向関連)

受注や販売の好調を指摘する声が多く見られる。

- ・夏物商材の出荷もますます順調にスタートしている。猛暑という長期予報も出ており、需要も盛り上がりつつある。(食料品製造業経営企画担当)
- ・半導体向けの製品需要が好調である。(化学工業営業)
- ・業種にもよるが、非常に好調な部署があり過去にない数量の受注を受けている。この状況が少なくとも秋ごろまでは続く。(電気機械器具製造業経営者)
- ・客先の生産台数計画が上向きとなっている(輸送用機械器具製造業研修担当)
- ・6月の荷物量は、前年同月を上回っている。徐々に景気は上向いている。(輸送業エリア担当)
- ・電気通信に関するインフラ案件では、公共系の入札件数が増加し、担当者はフル稼働状態である。(通信会社法人営業担当)
- ・引き続き新築マンション、戸建住宅共に、おおむね順調に推移し、売れている。分譲事業に関しては、低金利が大きく貢献している。(建設業経営者)

一方、売上が伸びないとのコメントもある。原材料高、人件費増などコストアップにより収益性の低下を懸念する声も散見される。

- ・販売量は横ばいの状況である。販売価格は低いままで材料費が上がっているため、収益性は低くなっている。(金属製品製造業経営者)
- ・円安、株高等の影響で上場会社の業績は好調であるが、客先の中堅・中小企業では、人材確保困難と人件費の増加、大企業からの値下げ要請、円安等によるコスト高騰で業績は厳しい。(公認会計士)
- ・仕入価格は今年に入ってから約 20%上昇している一方で、販売価格は、競争や受注量の鈍化等で思うようには改善せず、5%ほどしか上昇していない。(鉄鋼業経営者)

設備投資の好調を指摘するコメントがある一方で、不調を訴えるものもある。

- ・北米自動車業界向けの大型案件が決まっている。(一般機械器具製造業営業担当)
- ・2018 年末から始まる 4K・8K テレビ放送に対応するため、伝送路の光化や広帯域化が必要となり、ケーブルテレビ事業者の設備投資意欲が盛んになりつつある。(電気機械器具製造業総務担当)
- ・客先の業界全体が低調で設備投資は少なく、当社商品は競合先と価格競争が続いており、売上、利益共に落ち込んでいる。(電気機械器具製造業経営者)

(雇用関連)

人手不足は深刻で、景気への抑制要因となっている模様だ。

- ・有効求人倍率が高く、人材の需給バランスが崩れている。人手不足の企業が一生懸命募集をしても採用には至らない。企業では、どんな手段を使っても反応が悪いため、求人効果には非常に敏感になっている。(新聞社[求人広告]営業担当)
- ・人手不足感が拡大しており人材確保は容易ではなくなっている。限られた労働力で仕事をこなしているため、業績拡大や売上増加につながらない状態が続いている。(職業安定所所長)

(2) 景気の先行き判断

先行き判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。6月調査では、「やや良くなる」の割合が低下し、「変わらない」「やや悪くなる」の割合が上昇した。

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	回答 合計
2016年6月調査	2	26	103	81	18	230
7月調査	4	28	143	45	9	229
8月調査	4	32	136	51	6	229
9月調査	4	33	133	50	5	225
10月調査	6	46	126	50	7	235
11月調査	3	46	123	49	10	231
12月調査	3	45	116	45	8	217
2017年1月調査	3	41	129	46	7	226
2月調査	6	59	120	34	6	225
3月調査	2	43	123	49	8	225
4月調査	2	46	131	35	6	220
5月調査	3	53	139	29	5	229
6月調査	3	48	142	32	5	230

(家計動向関連)

先月に続き、お中元、ボーナス、夏休みといった季節要因による改善を期待する声が多い。

- ・お中元の繁忙期を迎える。(一般小売店[惣菜]店長)
- ・夏期休暇の時期に入るため、関連して需要の高まる商品が増える。(その他専門店[雑貨]店員)
- ・ボーナスが支給され、リゾートに行く人が増える。出かける時には何かおしゃれをしたいという人が増え、少しづつ動きが活発になる。(その他専門店[貴金属]営業担当)
- ・当面はボーナスが支給された分だけ良くなる。(一般レストラン従業員)
- ・長い夏休みに入り、天候に恵まれれば売上が伸びる。(旅行代理店経営者)

猛暑など天候要因への期待も引き続きある。

- ・今年の夏は一段と暑くなるとの予報で、盛夏を迎える時期は売上の伸びが十分に期待できる。(コンビニエリア)

担当)

・この夏は気温の大幅な上昇が予想されており、飲料やアイスクリーム等の販売増加が期待でき、来客数の増加も見込まれる。(コンビニ商品開発担当)

大型商業施設の新規開業効果は局地的にあっても、全体のパイが広がるわけではないため、先行き改善とはいかないとの見方がある。

・ターミナル駅周辺に新しいビルが増えてから、来客数は増加している。昼食に来たついでに立ち寄り人が多く、こまごました物を購入する客は多いが、高額商品を購入する客はいないので、売上は減少してきている。(百貨店売場主任)

・ここ数か月、食料品は堅調であるものの、衣料品や洋品雑貨等は前年同期を下回っている。大型商業施設のオープンによるエリアへの集客増加はプラスに寄与しているものの、競合エリアから客が移行した結果であり、地域全体の景気が上向いているとはいえない。(百貨店企画担当)

消費者の節約志向が続くため、消費改善は期待できないとの見方も引き続き散見される。

・売上に占める低単価商品の割合が高止まりで、なかなか景気上昇ムードにはならない。ただし来客数に減少はみられない。(商店街代表者)

・客単価や購入点数等をみると、必要最低限の購入しかしない。価格が安い商品だけを選ぶ傾向がずっと続いている。(スーパー店員)

・経済の先行き不安で財布のひもは依然として固く、遊興費は節約され、期待がもてない。地方はどんどん衰退していくばかりである。(スナック経営者)

乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、以下のとおりである。ボーナス商戦や所得増への期待が見られる一方、あまり期待できないとの声もある。

・7月以降はボーナス商戦も本格化するので、販促活動等で消費マインドを刺激して需要を掘り起こしたい。(乗用車販売店経営者)

・大手企業の賃金は増えているそうだが、客との会話からは、中小企業では変化がないか、むしろ減っているようである。人手不足でも給料は上がっていない。(乗用車販売店営業担当)

・夏のボーナス、主力車種のマイナーチェンジ、7月のフルモデルチェンジ車種の発表と、客を店頭へ誘致する材料は多数そろっているが、客と話をしても、今すぐ買換えようといった積極的な意欲は感じられない。まだまだ市場は厳しい状況にある。(乗用車販売店従業員)

・6月が良かっただけに先行きの見通しが難しく、変わらないというより、わからない状態である。(乗用車販売店従業員)

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	回答 合計
2016年6月調査	1	0	8	1	1	11
7月調査	0	4	7	1	0	12
8月調査	0	2	8	2	0	12
9月調査	0	1	11	1	0	13
10月調査	0	4	8	1	0	13
11月調査	0	2	7	4	0	13

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	回答 合計
12月調査	0	5	6	2	0	13
2017年1月調査	0	3	7	3	0	13
2月調査	0	3	4	5	0	12
3月調査	0	1	3	8	0	12
4月調査	0	2	6	3	1	12
5月調査	0	2	8	1	0	11
6月調査	0	2	7	2	0	11

(企業動向関連)

現状判断でも受注の好調を指摘するコメントが多かったが、先行きについても、この好調が持続するだろうという見方が散見される。当地の主力である工作機械、自動車関連が好調のようだ。

・商品の受注数が安定していることや、株価の動き等をみると、多少は景気が良くなっている。(輸送用機械器具製造業デザイン担当)

・完成車メーカーからは、輸出が堅調に伸びる見通しと聞いている。(輸送用機械器具製造業総務経理担当)

・今後数か月に関して、既に受注見込みが立っている客先が多い。(会計事務所社会保険労務士)

・取引先での案件受注が続いており、年明けまでは発注が続く見込みである。(その他サービス業[ソフト開発]社員)

・今後も高い水準での受注量の維持が見込まれる。(一般機械器具製造業経理担当)

・受注状況は順調に推移しており、数か月以内に急速に悪化することはない。(電気機械器具製造業企画担当)

・今のところ工作機械関係や自動車関係の製品が非常に好調で、秋ごろまではこの状況が見込まれる。(電気機械器具製造業経営者)

景気がよいとの声にもかかわらず、実感はないとのコメントもみられる。また、景気は良くないし、先行きも期待できないとの声もある。

・個人レベルでは好景気という実感はないが、公表されているデータを見る限りは、景気は良いものと見込まれる。ただし、少しの要因で大きな変化が起きかねない不安定な状況であることは間違いはない。(建設業経営者)

・景気の上昇を肌身では感じられない。欧米等の経済的な影響をかなり受けており、このまま変わらない状況が続く。(通信会社法人営業担当)

・業況が良くなる見込みがない。(電気機械器具製造業営業担当)

・しばらくはこのまま悪い状況が続く。(輸送用機械器具製造業品質管理担当)

人手不足は深刻で、収益機会の逸失にもつながっているようだ。

・人手不足は相変わらず深刻だが、荷主への値上げ要請も受け入れられやすい環境にある。(輸送業経営者)

・システム構築案件の増加に対応するため、専任の工事監理技術者の確保が必要であるが、人手不足のため積極的な受注活動を展開できない。(電気機械器具製造業総務担当)

(雇用関連)

人手不足の状況はこの先も続きそうだ。利益が出ないので人手不足であっても雇用の補充ができないという面もあるようだ。

・人手不足が急激に改善されるとは考えにくい。新入社員が慣れてある程度の戦力になれば生産性は上がるが、それでも充足できず、企業としては中途採用を続けていくことになる。(新聞社[求人広告]営業担当)

・中小企業では、仕事が増えても利益が伸びないなかで人手不足が続いている。従業員に利益が還元できないため、景気は足元と特に変わらない状況が続く。(職業安定所職員)

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらともいえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が対象となっている。

調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照下さい。

(お問い合わせ) 調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail: chosa-report@murc.jp